

国内最大級を目指す「処方情報分析サービス」、9月開始

客観的データを迅速に提供、医薬品の適正処方を支援
一年後に1,000万データ規模に

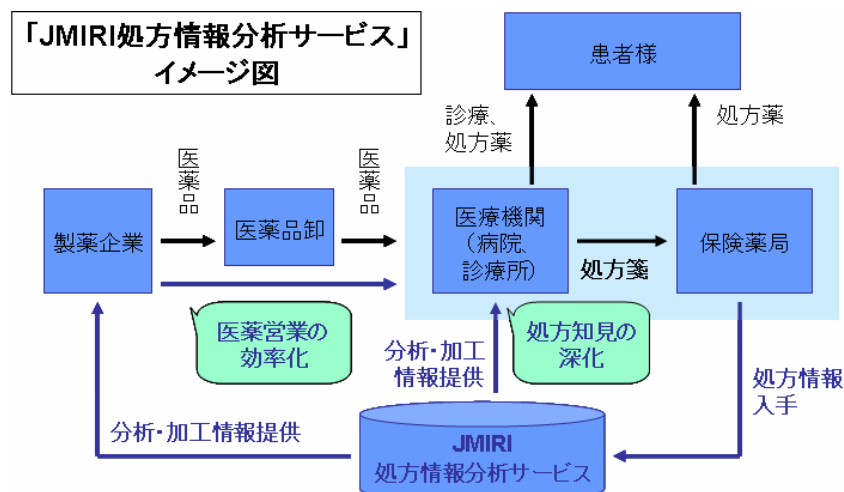
医療情報ベンチャーの株式会社医療情報総合研究所（本社：東京都文京区、代表取締役社長：好本一郎、以下 **JMIRI** [ジェイミリ]）は、「**JMIRI** 処方情報分析サービス」を本年9月より開始し、製薬企業や医療関係機関に向けて、月・週単位（条件により日次単位）での対象医薬品（薬効）の処方動向、患者様数ベースでの処方傾向などの情報を迅速に提供します。

JMIRI は実際の処方情報を基にしたデータベース環境を既に整備しており、自社での分析・加工を実施し、高付加価値の「**JMIRI** 処方情報分析サービス」として情報提供するものです。データベースを、処方件数にして今後一年間で1,000万件規模以上に拡張する計画であり、データ規模としては国内最大級を目指します。

医療情報の分析、活用は保健医療全体の発展にとって重要です。現在、医療情報分析として行われているものには、医薬品流通データサービス、レセプト（診療報酬請求明細書）データサービス、医師を対象としたアンケート調査などがあります。しかしながら、処方情報の有効活用は日本では必ずしも十分には進んでいませんでした。今回、実際の処方情報を基にした処方情報分析サービスが提供されることにより、これまで小規模なアンケート結果や医師の長年の経験、情報交換に頼っていた発売後の医薬品の評価が、よりの確に、客観的にできるようになり、処方知見の深化や医薬営業の効率化に貢献し、この結果、医薬品の適正処方がより進むなど、多くの領域での効果が期待されます。

【処方情報分析サービスの流れと情報管理】

「**JMIRI** 処方情報分析サービス」では、関係者の協力の下、個人情報の保護体制に万全を期しております。患者様名、医師名などの個人情報をあらかじめ削除し、必要な情報だけを処方情報として、保険薬局や薬局チェーンから全国規模で入手し、データベース化、分析・加工を行い、その結果を製薬企業や医療関係機関に提供します。



【「JMIRI 処方情報分析サービス」の特長】

- ・ 国内最大級の処方データベース：
全国規模で収集し、今後一年間で 1,000 万件規模以上を計画。
- ・ 情報の鮮度が高い：
月次のデータを翌月に提供。週次での提供も可能。
(条件により日次での提供も可能。)
- ・ 情報の分解度が高い：
個別処方情報を蓄積しているため、お客様の様々な要求に応える詳細かつ多面的な分析が可能。

【提供する主な分析・加工情報】

- ・ 対象医薬品(薬効)の処方動向：
処方量および薬価ベース、および医師数や患者様数ベースでの処方動向
- ・ 患者様数ベースでの処方傾向(分布・推移)の統計分析：
処方用量・日数、併用例、単剤／追加処方、変薬、中止例についての処方傾向

【利用のメリット】

「JMIRI 処方情報分析サービス」は、相当規模の処方情報を継続的かつ迅速に収集・蓄積し、詳細かつ多面的な分析・加工を実施しますので、医薬品流通データやアンケート調査とは違った用途でご利用頂けます。ご利用によるメリットとして以下が挙げられます。

- ・ 製薬企業にとっては、タイムリーに実処方動向を把握することで、自社新薬の上市トレース分析を的確に行ったり、医薬営業の効率化に活用したりすることが可能となります。
- ・ 医療機関にとっては、新薬およびジェネリック医薬品に関して他の医療機関の処方実績と比較し、差異を統計的・継続的に把握することで、処方についての改善ポイントを把握することが可能となります。
- ・ 医薬品の改良情報（剤形の改良、適用拡大検討などにおける医師の知見を統計的にデータとして整備）や安全症例の蓄積に加え、今後は、第三者評価にも利用可能と考えます。

【将来展望:統合的な医療情報サービスへ】

医療機関、学術関係者や製薬企業の多様な要求に応えるため、当面は「JMIRI 処方情報分析サービス」の規模の拡充や分析・加工データの最適化を進めていきます。中長期的には、処方情報分析サービス事業を通して蓄積される事業ノウハウや他社との提携基盤を活用し、処方情報に留まらず、学術関係者の助言を採り入れながら、統合的な医療情報サービス事業として発展させ、患者様の健康管理、保険薬局の経営、厚生行政への貢献も含め、医療システム全体への寄与を目指します。

***** 本件に関するお問い合わせは、下記までお願いします *****

株式会社医療情報総合研究所
担当: 企画管理部 松原 秀樹(まつばら ひでき)
電話番号: 03-5842-2477
E-mail: cs@jmiri.jp